

○ 消防活動

最近は、建築物の大規模化及び用途の多様化などが進む中、発生する災害も複雑大規模化する傾向にあり、消防活動も困難を極めています。

このような中で災害事象に的確に対応するために、高度な知識、技術を持った精強な消防部隊の育成に努め、災害から市民の生命、身体、財産を守るため全力を挙げています。

平成26年中に発生した火災関係の出場は31件で、その出場車両は、消防ポンプ車をはじめ救助工作車、救急車など延べ159車両で523名が出場しています。

救助出場件数は、40件でそのうち22件救助活動を行い、17人を救助しています。その出場車両は、救助工作車など延べ180車両で518名が出場しています。

風水害、危険物事故等の出場は81件でその出場車両は、消防ポンプ車など延べ117車両で401名が出場しています。

○ 消防通信施設

火災などの被害を最小限に抑えるためには、火災などを早期に覚知し、消防機関が素早く現場に到着するとともに、現場においては、情報の収集及び指揮命令の伝達を迅速かつ的確に行うことが重要であり、消防通信施設の果たす役割は大きくなっています。

消防通信施設のひとつである119番回線は、加入電話又は公衆電話によって消防機関に火災、救急、その他の災害の発生などを通報するものが3回線、携帯電話により通報するものが2回線、IP電話により通報するものが電話事業社ごとに2回線ずつ設置しております。

また、消防救急無線は、平成28年5月末までにアナログ通信方式からデジタル通信方式に移行します。デジタル通信方式は、データ伝送による確実かつ効率的な消防救急活動の支援、無線チャンネルの増加、通信の秘匿性の向上による個人情報等保護のメリットがあります。

